



平成29年12月1日

北名古屋市議会議長
永津正和様

北名古屋市議会 市政クラブ

会長 長瀬悟康



視察・研修報告書

政務活動費により視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

参加議員名	市政クラブ (別紙のとおり)	
日程	平成29年 11月8日から11月10日まで 3日間	
月日	視察・研修先	視察・研修概要
11・8	※移動日	
11・9	全国都市問題会議 沖縄県立武道館アリーナ	基調講演 主報告 一般報告
11・10	同上	パネルディスカッション

旅費合計	交通費	宿泊費	土産代	通信費	参加費
615,480円	303,940円	221,000円	円	円	90,540円

行政視察参加者名簿

市政クラブ 9名		備考
会 長	<small>ながせ</small> 長 瀬 <small>のりやす</small> 悟 康	
幹 事 長	<small>さわだ</small> 沢 田 <small>さとし</small> 哲	
政調会長	<small>かつらがわ</small> 桂 川 <small>まさのり</small> 将 典	副議長
	<small>まきの</small> 牧 野 <small>たかはる</small> 孝 治	
	<small>ひらの</small> 平 野 <small>ひろやす</small> 弘 康	
	<small>おおの</small> 大 野 <small>あつし</small> 厚	
	<small>かんだ</small> 神 田 <small>かおる</small> 薫	
	<small>ながつ</small> 永 津 <small>まさかず</small> 正 和	議長 ※公務のため2 日目より参加
	<small>わたなべ</small> 渡 邊 <small>さちこ</small> 幸 子	

視察報告

北名古屋市議会 市政クラブ

文責：桂川将典

視察訪問先

- ・全国市長会主催：全国都市問題会議（沖縄県那覇市沖縄県立武道館）

日程

- ・11月9日～10日（11月9日9:30開会のため8日に現地入りし前泊）

視察目的および内容

- ・全国都市問題会議 テーマ「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略」

第1日目

東京への一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけて日本全体の活力をあげることを目的として開催された。地域の創生戦略に関する取り組みについて、那覇市における事例報告を軸として講演と報告やパネルディスカッションが開かれました。

基調講演では東京大学史料編纂所教授山本博文さまより「多様性のある江戸時代の都市」について講演がありました。江戸時代のまちづくりが発展して現在にいたる、歴史的視点で現在の地方都市と地域産業、そしてまちづくりについて語られました。産業や人口移動と移住について、時間軸による視点の持ち方に対しては、これからの地方創生を考える議員という立場において、基本的な教養として身に着けるべきものと感じられました。

続いて沖縄県那覇市長城間幹子さまより、那覇市のご紹介と「ひとつながりまち～新しい風をつかむまちづくり～」をテーマとして講演がありました。那覇市を中心として半径2000kmの圏内には東京・香港・ソウル・北京・マニラ・台北といった国内外の主要都市が含まれる地理的優位性があり、クルーズ船の船着き場や空港滑走路の増設など、これからの商業貿易拠点の整備の推進を現在行われているところだと伺いました。沖縄市内にいと、日本人だけではなく、外国人観光客の多さも目を引くところです。最近では海外の風光明媚なビーチリゾートが観光客ならびに観光客目的の中小事業者が過剰に集中し、その地域観光の根本となっている自然や景観を大きく損なってしまった、というニュースを立て続けに目にします。日常生活ごみなどで汚染されたビーチに魅力はありません。とうとう政府が乗り出してきて、シャットアウトする、といった厳しい対応をされているところもあります。美しい自然環境の保護は環境問題だけではなく、いっぼうで観光業という商業的展開においても重要な取り組みであることがわかります。しかしながら観光産業だけでいいのでしょうか。地元市民の楽しめるまちづくりとしては片手落ちであると那覇市ではとらえられ、「観光客も地元市民も楽しめるまちの創造」に向けての中心市街地な

どの整備を進めているところだと報告を受けました。さらにこれをすすめるために「感動を共有する、文化の香り高い芸術創造発信拠点」の建設計画を推進しています。アジアに開かれた市として、国内外から優れたヒトやモノが集い、そこから新しいヒトやモノやコトの付加価値を生み出す魅力あるまちづくりをめざしている、と報告を締められました。

首都大学東京大学院の山下祐介氏からは現在の主流をしめている「選択と集中」に警鐘をならされており、なかなか興味深い別の切り口の視点で批判がなされておりました。たしかに人口の過剰集中は問題となっているのに、「選択と集中」という言葉が包摂する政策的態度には地方へのインフラ供給の抑制を住民に想起させるものであり、そうなれば地方人口が減少するのは当然のことだ、というのはその通りだと思いました。現実的にインフラ整備を続ける政府資金の財源が確保されるのかどうか、という問題意識についても判断を求められる中央政府の職員に志向のバイアスがかかってくることは間違いありません。財政政策の問題が地方人口の減少を引き起こしている、という指摘には納得しました。そのほか、釧路市、また沖縄観光の事例報告がございました。

第2日目 パネルディスカッション

パネリストの話された要点について簡単に報告いたします（配布資料なし）

パネリスト登壇者および要点

染谷絹代 静岡県島田市長

- ・「縮充」が目標。市民参加型で推進する。
- ・「島田市緑茶化計画」
- ・緑茶をシビックプライド、シティプロモーションに。
- ・小中学校に緑茶がでる水道がある。PV制作。
- ・金融機関とも含めた「オール島田」での企業支援
- ・商工会青年部の活躍も活発。会員増全国 No.1

山岸正裕 福井県勝山市長

- ・肉食恐竜の歯
- ・縄文・弥生時代の遺物
- ・明治の近代化産業遺産
- ・2000年12月に市長へ。地域住民と一体化したまちづくりを目指したい。
- ・勝山ルネッサンスー新しい価値観による豊かさの発見
- ・エコミュージアムによる勝山ルネッサンスの実感体験
- ・地域の誇りを持つ市民を増やす。
- ・地域内遺産発見事業の推進（地域ごとの予算100万円）

藤田とし子

- ・人と人がつながり、共感で響きあう「場」と「しかけ」
- ・具体的にはプラットフォームとしかけの仕組みづくり
- ・柏市の事例：柏駅前の北部開発
- ・歴史、文化などの観光名所が全くない地域
- ・何の情報提供をするか
- ・新たなサービスの事業展開をしている企業、市民活動など
- ・NPO 法人柏市インフォメーション協会が受託して案内する
- ・案内するために調べる。調べると発見があり、発信したくなる。
- ・市民起点の街歩き MAP プロジェクト
- ・その結果、ボランティアの人たちにシビックプライドが醸成された
- ・有志による柏のアートラインプロジェクトにつながる
- ・小学生が作れば小学生のみたこの町の MAP になる。課題も見えてくる
- ・田辺市の中心市街地活性化事業を受託。有志で MAP づくりと勉強会を開催。
- ・飲み歩き食べ歩きイベント、100 円商店街、などの実行委員会が立ち上がる
- ・有志のイベントができると、一般の主婦からもイベント主催を要望される
- ・紀勢線の無人駅をつなぐ「紀の国トレイナート2014」がスタート
- ・わが駅、わが町に立ち寄ってくれた人におもてなし

コメンテーターより MAP づくりで重要なことは

- ・地域エリアマップ
- ・時間ロードマップ
- ・人間ステークホルダーマップ

この3つを作り、共有すること。

能作千春 株式会社能作 取締役産業観光部長

- ・見学・体験・飲食・ショップ・観光案内の5要素
- ・体験と交流を重視する観光の傾向強化
- ・富山県高岡市の高岡オフィスパークへの社屋移転
- ・移転に伴い工房見学・製作体験・ショップ・レストラン併設
- ・音、熱、においを肌で感じる工場見学
- ・鋳物づくり体験など、来客は半年で5万人。
- ・会社の売り上げは増加しているが因果関係については分析中
- ・NOUSAKU は海外でもブランド。芸術的工芸品としての評価が高い。
- ・今後は海外顧客にも訴求していきたい

- ・ TOYAMA DOORS 観光案内のカード配布、プロジェクションマッピング。
- ・ IMONO KITCHEN 錫の容器で食品を提供する
- ・ FACTORY SHOP 産業観光を行う唯一の利益スポット。高価格商品も開発した。
- ・ 社員が直接お客様と会話することで、モチベーション向上
- ・ 社内がきれいに維持されるようになる

コメンテーターより

能作社長の産業観光をスタートされたきっかけの一文。

平田大一

- ・ 「はい、すい、はーいーやいーやーさっさー」会場全体に響き渡る大きな掛け声で開始。
- ・ 会議をエンターテインメント化したい。
- ・ 2011年4月 文化観光スポーツ部部長に41歳で民間から就任
- ・ 演出家として活躍してきた
- ・ 台本：基本。
- ・ 配役：人事は期待感で決める
- ・ 規模：予算感
- ・ 文化発信交流拠点を作る。みんなの拠り所がシンボル
- ・ 文化観光振興事業でプロモーターを育てる
- ・ 沖縄芸能活用プロモーションで五つ星のタイトルを取ってくる
- ・ アースカウンスル：環境整備をする。法人格を持った文化団体を育成し、チームでの活動をすることが重要。
- ・ 沖縄県予算 当初30億→現在94億。全体予算の1.2%。
- ・ 2022年が沖縄復帰50周年になる。ここでいったんリセットされるべき。
- ・ 2019年くみ踊りが生まれて300年。オリンピックの前年のPRで世界へ発信。
- ・ 文化をおやつではなく主食として考える沖縄
- ・ 感動立県おきなわ！ → ひとつづくり産業
- ・ 沖縄に来れば元気になる、わくわくできる。
- ・ 常にしまんちゅがみんなで頑張っ活動すること。
- ・ 親戚づきあいしてくれる旅の人を増やすことが重要

以上、簡単ではありますが全国都市問題会議についての報告といたします。